



平成30年度一般会計・6特別会計予算を可決 国分寺市介護保険条例等全60議案を可決

平成30年第1回定例会は、2月23日から3月26日までの32日間の会期で開催し、市長提出議案59件、委員会提出議案1件を議決しました。(結果は8頁に掲載)

2月25日には日曜議会を開催し、多くの市民の方が傍聴される中、市長の施政方針に対する各会派による代表質問を行いました。(2～4頁に掲載)

また、一般会計予算案に対して各会派による討論を行い、賛成・反対の意見表明をしました。(5～7頁に掲載)



リオン広場から臨むcocobunjiプラザ

平成30年度一般会計予算を賛成多数で可決

平成30年度当初予算案(一般会計と6特別会計)は、2月23日の本会議において予算特別委員会(高橋りょう子委員長、本橋たくみ副委員長)を設置して同委員会に付託しました。委員会では3月9日から19日までの7日間(40時間)にわたり審査を行いました。

予算編成での特色・予算の内容は

国分寺市総合ビジョンの2年目を迎える平成30年度予算は、一般会計が449億5,598万6千円(前年度比9.3%減)、6特別会計(前年度7特別会計。地域バス運行事業特別会計は平成29年度末で廃止)を合わせた総額は717億9,090万5千円(前年度比26.7%減)です。一般会計は前年度に対し、46億3,212万円、予算総額では261億8,988万7千円の減額となりました。主な減の要因は、歳入では、国分寺都市計画事業国分寺駅北口地区第一種市街地再開発事業特別会計繰入金の減、歳出では、前年度の国分寺駅北口再開発ビルの保留床処分金を活用した積立金を減額したことが挙げられます。国分寺駅北口再開発事業関連の予算が減額となったことが主な減の要因となっていますが、歳出において扶助費では待機児童解消に伴う保育所入所児委託料等、維持補修費ではひかりプラザ施設修繕費等、

事業費では民設民営保育所園舎建設費等補助金等が前年度に対し増となり、一般会計及び全会計総額とも前年度に次いで過去2番目に大きな予算規模となりました。

予算編成の基本的考え方を質す

交付金では「地方消費税交付金が国の清算基準の見直しにより3億円減となることが見込まれているが、財政への影響は大きい」等、**経常収支比率**では「扶助費の伸び等で悪化が続くことが見込まれる中、今後の財政運営の考え方は」等、**基金**では「財政は回復したのではという議論がある中、基金も全体的に足りていない。今後も厳しく財政運営を行うべき」等、**公債費**では「償還が進むよう組まれたフレームだが、庁舎建設費等が反映されていない。この見立てが成り立つのか」等、**国分寺市ビジョン関連**では「2年目を迎えるが、施策評価の結果等をフレームにどう反映するのか」、**財政フレーム**では「オリンピック・パラリンピックの開催に向けて資材が高騰している等の状況や開催後の経済状況を含めたフレームとなっているか」等といった質疑がありました。

歳入にかかる主な質疑

歳入では、**市税**に関し、「納税相談充実のための取り組みは何か」「都市計画税がどのような事業に充てられているか、その示し方の検討を」等といった質疑があり、その他の歳入につ

いては、「cocobunjiプラザの使用料の積算根拠は」「クラウドファンディングは今後も積極的な活用を」等の質疑がありました。

歳出にかかる主な質疑

歳出では、**人件費**に関し「退職手当基金の考え方の整理を」「超過勤務手当の削減に向けた取り組みは何か」等の質疑がありました。

次に費目ごとに審査し、**総務費**では「庁舎基本構想の策定では、省エネルギーの観点等から環境に配慮した新庁舎の検討を」「こくべジプロジェクトは今後も補助が必要」「cocobunjiプラザのランニングコストはLホールと比べ負担増だ。収益を上げる工夫等と負担を低く抑えるよう注力を」等、**民生費**では「生活困窮者の自立に向けた相談支援体制を盤石に」「高齢者配食サービス事業を3年間で終了する理由は」「障害者移動支援充実のため、ガイドヘルパー不足の解消に向けて賃金改定等の検討を」「障害児の待機児童解消に向けて民間の児童発達支援事業所等の誘致について都と協議を」「いじめ・虐待防止のため子ども専用相談電話にフリーダイヤルの導入を」「登録者数が定員数を超えている現状・狭あい状況から学童保育所の早急な整備等を。小学4年生以上の受け入れについて引き続き検討を」等、**衛生費**では「いきいきセンター指定管理の募集金額を上げた理由は」「新規導入の骨髄移植ドナー支援事業助成金、特定

次ページに続く▶

シリーズ 国分寺市議会⑥

予算特別委員会は

毎年2月から行われる第1回定例会において、翌年度に見込まれる収入と行政サービスの費用(支出)等を見積もった「予算」の審査を行うため市議会に設置される特別委員会です。

この委員会は、議長を除く全議員で構成しており、予算書を1頁ずつ確認し、その内容と費用の妥当性等について審査を行っています。

なお、審査にあたっては、翌年度の予算だけでなく、将来の財政見通し(財政フレーム【※】)が健全なものであるか

の確認を行っています。

今年の予算特別委員会は、7日間40時間を費やし、必要な行政サービスが計画されているか、効率的・効果的な市政運営に寄与するものか等、しっかりと審査を行っております。

※財政フレームとは

将来に渡って歳入と歳出の額を積み上げて中長期的な計画の財源的裏づけをするもので、計画を達成できるかどうかを左右する重要な試算です。財政フレームは、国分寺市総合ビジョンの期間である平成36年度まで試算しており、毎年度の予算編成時に再試算しています。

議員派遣

cocobunjiプラザを視察

平成30年3月5日、国分寺駅北口再開発ビルの「国分寺市立cocobunjiプラザ」等の視察を行いました。



(リオンホールにて)

不妊治療費助成金や新たに始まる脳ドック検診の周知を」「経費削減のため、し尿処理は他市等との共同処理の検討を」等、**労働費**では「仕事に関心がある方が多くいる一方で福祉分野等での人材不足の現状がある。市が間に入る等雇用対策への取り組みを」、**農林費**では「赤米の推進に特化した予算を組み、市を挙げて広げて欲しい」、**商工費**では「中小企業が取得した新規設備の固定資産税を自治体の判断により時限付でゼロにできる制度が国会で審議中。導入の検討を」等、**土木費**では「地域バス運行事業経費は、一般会計に移行しても特別会計での計上時と同じように資料等整理して運営を」「国分寺駅北口地下自転車駐車場設置に伴い本町三丁目北臨時自転車駐車場が廃止の予定だが、一定期間重複利用できるよう検討を」「視覚障害者に国分寺駅の西武線ホームに設置されるホームドアの周知を」「感震ブレイカー助成の予算化を評価する」等、**消防費**では「期限切れによる食品ロスが出ないように備蓄倉庫内の食品管理を」「応急給水栓の設置が進む中、地区防災訓練で実際に給水栓を使った訓練を」等、**教育費**では「新教育系システムは成果や費用対効果を踏まえた取り組みを」「図書館運営協議会の御意見を踏まえ、よりよい運営を」「市民スポーツセンターバリアフリー化工事に伴い、丁寧な周知と代替施設のご案内を」等といった質疑がありました。

一般会計は賛成多数で可決

委員会では、採決の結果、賛成多数で可決し、3月26日開催の本会議では、各会派から討論が示され同様の結果となりました。



6特別会計予算すべて可決 そのうち3会計は賛成多数

委員会において、**国分寺都市計画事業国分寺駅北口地区第一種市街地再開発事業特別会計**では「再開発ビルの東街区にビル内に入る店舗等の看板を設置し、通勤・通学等の人へPRを」等、**国民健康保険特別会計**では「都道府県化は大きな制度変更。市民が混乱する等影響がでないように。また相談業務は市が行うのか」等、**介護保険特別会計**では「後期高齢者人口の推移と今後の保険料について」等、**後期高齢者医療特別会計**では「30年度被保険者数を何人で見込んだか」等といった質疑がありました。

本会議では、**国分寺都市計画事業国分寺駅北口地区第一種市街地再開発事業特別会計**は賛成多数で可決、**介護保険特別会計**は「介護保険料の値上げが前提のため、介護保険条例の一部を改正する条例とともに撤回し、介護保険料の値上げを中止した上での再提案を求めるとの反対討論のち賛成多数で可決、**後期高齢者医療特別会計**は賛成多数で可決しました。

その他の会計は全員賛成で可決しました。

介護保険料等の改正を 賛成多数で可決

介護保険法等の改正に伴い、一定所得以上の方のサービス利用時の費用負担を2割から3割にすること、国の介護医療院新設に関する規定を追加すること、介護保険料の基準額を月額5,733円から5,916円にするため、「介護保険条例」の改正を行う提案がありました。

厚生委員会では、「保険料改定の要因」を問

う質疑に、「高齢者人口の推移、要介護認定者数の増加、サービス利用量の増加などを見込み算出した」との答弁がありました。

また、介護給付費に不足が生じた際の充当や介護保険料の上昇抑制を目的に使用する介護給付費準備基金の取り崩し額について、「2億2千万円とする根拠及びその額の妥当性」に対する質疑に、「給付費の対応に耐え得る金額に抑えること、第8期以降の保険料の上昇が見込まれることなどから取り崩し額を設定した」との答弁がありました。

さらに、「費用負担が3割になる方の人数や割合」の質疑に、「精査中であり、それに伴う相談等は来ていない。必要性は認識しており、把握していきたい」との答弁がありました。

そのほか、「パブリック・コメントの際は丁寧な資料提供を」「介護保険料の基準額の推移」「一部の方の費用負担が3割になることや保険料が改定されることによる生活への影響」「費用負担の所得要件」「介護医療院の新設の目的」等について確認する質疑が行われました。

採決の前に、委員から、「介護給付費準備基金の取り崩し額を増額して保険料改定を抑制すること」を求めるとともに、「3割負担に該当する方の今後の影響が十分把握されていないこと」等をもって反対討論がありましたが、賛成多数で可決しました。

本会議でも、「保険料の改定の根拠とする後期高齢者数、介護認定者数の伸び率などの推計では説明がつかないこと」「費用負担がある方の生活への影響に対する検証が十分でないことから利用者の状況把握や負担軽減の市独自の取り組みの検討」を求める反対討論がありましたが、賛成多数で可決しました。

市政を問

平成30年 第1回定例会 代表質問の質問事項・答弁の要旨

内容は代表質問を行った各議員が一定のスペース内で自由にまとめたものを代表質問が行われた順番に掲載しています。

攻めの姿勢でさらなる 市民利益の実現を！



自民党新国会 丸山 哲平

組織再編（健康部、福祉部）について

丸山 福祉保健部が健康部と福祉部の2部に再編される。この意図について問う。

市長 高齢化が今後も急速に進むという認識の下、健康推進・予防重視の観点から健康部を独立させ取組みを強化する。また健康部を関係各部（子ども家庭部、教育部等）間の連携の中心とし、さらなる市民本位の対応を図る。

丸山 予防の取組みでは財政的な効果測定、抑制の目標設定が必要だ。健康であることが、御本人の利益になるのみならず、市全体にどのような意義を持つのか提示することを求める。

新庁舎建設、公共施設マネジメントについて

丸山 来年度「(仮称)国分寺市新庁舎建設基本構想」の策定が予定されているが、ここで具体的な場所・時期が示されるのか伺いたい。

市長 市民の利便性の向上、災害対応の拠点のためにも、どこかで結論を出さねばいけない。ただしまだ不確定要素もあり、現時点で時期と場所が示せるか否かについては控えたい。

丸山 公共施設マネジメントについてはこれま

で修繕・更新費という観点で議論がなされて来たが、人件費等も含めた維持費という観点での検討が不足している。つくった後に回せるのか否か、この検討と市民への情報提供を求める。

財政運営について

丸山 地方消費税の清算基準の見直し及びふるさと納税による税源流出により来年度当市は数億円規模で歳入が減少する。今後もいつこうした外部要因の影響があるとも限らない。より厳格な財政運営、財政規律の維持を求める。

市長 市長会を通じ清算基準見直しに異議を申し立てた。おれずに財政規律を守りたい。

税外収入の拡充について

丸山 今般初の試みとしてクラウドファンディングやネーミングライツといった税外収入の拡充が図られたが、これら取組みの評価を問う。

市長 財政面、また市民の方々に市に対する愛着醸成として有効であったと考える。

待機児童対策について

丸山 来年度は新規3園開設し、既存施設の定員拡充も行う予定だが、今後の見込みはどうか。また財政的に市単独では限界があり国・都の負担も求めるべきではないか。見解を問う。

市長 市として積極的に取組んでいる。計算上

はなくなるはずも社会情勢変化にまだ追いついていない。国・都と一丸でやる必要がある。

骨髄移植及びドナー登録の推進について

丸山 昨年、私のドナー体験を経て提言した骨髄移植ドナー支援につき早々に助成金交付事業を開始することを評価。特に当市の10日間上限は全国初と認識、この点も高く評価したい。

市長 他市は7日間だが実態に即し設定した。

国分寺駅北口再開発事業、商業振興について

丸山 4月にビルが開業するが地元商店街等の発展にいかにつなげるかが重要だ。

市長 再開発ビルの効果が商店街にも及んでいかなければならないと考えている。商店街・商工会と連携し、積極的に支援をしていく。

次ページに続く

請願・陳情の 提出について

請願・陳情はどなたでも提出できます。

市民の皆様への行政等に対するご要望は、請願・陳情として市議会に提出できます。

請願・陳情はいつでも提出できますが、平成30年第2回定例会（6月1日開会予定）からの審議を希望する方は、5月14日（月）までに直接議会事務局へお持ちください。

農業の活性化について

丸山) 地元産品の消費量をより上げる取組みを、求める。特に最大の消費者となる各家庭での消費を増やすための広報・工夫を求める。

市長) こくベジプロジェクトの推進等を通じて積極的に取り組む。市民への周知も図る。

災害に強いまちづくりについて

丸山) 当市は市面積の約50%が防災推進地区になっており全国的にも進んだ自治体である。一方まだ半分が推進地区ではない。今後どのような支援、取組みを行うのか問う。

市長) 防災まちづくり学校を一つの軸として、市民の方々に防災安全課より積極的に勧奨するなどして全市カバーを目指して参りたい。

その他 公民連携、文化振興、都市計画道路、働き方改革等質問。

堅実な基金積み立て整備で 財政基盤の確立を



公明党 高橋 りょう子

【1. 国分寺市総合ビジョンの事業進捗】

問) 持続可能なまちづくりを掲げ策定した市総合ビジョン。初年度の進捗状況、次年度の決意は。

市長) 毎年アンケートを取りながら計画・実行評価・改善を堅持しつつ計画を進めて行く。

【2. 職員確保・人材育成について】

問) 市政運営の要は職員。福祉やIT分野、特殊技能を有する人材をどう確保育成していくか。

市長) 過去の採用で年齢的な隙間が有る。技術専門職も含め人材確保育成、補充も行っていく。

【3. 財政健全化による財政基盤の確立を】

問) 財政調整基金を取り崩しての組み立てとなり事情は一定理解するが、常態化は避けるべき。

市長) 3億円程取り崩す予算を立てたが、基金残高を維持できるよう安定的な運営に努める。

問) 予算規模が増え経常経費が増大している。要因や今後の見通しについて見解を問う。

市長) 民設民営保育所整備や障がい者福祉サービス等の費用が増え社会動向を慎重に見極める。

【4. 公共施設マネジメント・新庁舎建設】

問) 公共施設の老朽化は年々進んでいく。又、新庁舎建設に市民は概ね賛成との意見が多く財政的にも計画通り着実に進めて頂きたい。

市長) 2020東京オリンピック等都内の工事費が急激に上昇。着工時期を見据え慎重に進めたい。

【5. 福祉と包括支援について】

問) 急速に進む少子高齢化や障がい者施策、ひとり親家庭の支援など多様化する課題解決には地域密着の総合相談窓口設置の検討とあるが所掌事務の異なる組織の体制作りどう取り組むか。

市長) 庁内縦割りであってはならず、複合的に指導できる体制を健康部中心に構築していく。

【6. 子どもを取り巻く環境について】

問) 保育園の待機児童問題解消への努力は評価するが追いつかないのが現状。多様化する保育ニーズに対応するには幼稚園の預かり保育も視野に検討すべきと考えるが、今後の取組み見解は。

又、障がい児の待機状況も深刻だ。民間の発達支援事業所の誘致に努めて頂きたいが如何か。

市長) 幼稚園での預かり保育等への話し合いを進め協力を頂きたいと考えている。又、障がい児には庁内横断的な連携等で民間参入も進める。

【7. 医療費助成・子育て支援サービス拡充】

問) 長年提案して来た脳ドック検診の追加を評価。又、子どもの医療費助成制度やインフルエンザ予防接種公費助成の更なる制度拡大充実を。

市長) インフルエンザ予防接種を小3まで拡充。

【8. 切れ目の無い子ども若者支援について】

問) 妊娠期の育児不安解消、児童虐待未然防止、学校でのいじめ問題、若者の引きこもり等対策に向けた子育て世代包括支援センターの準備を。

市長) 新規事業の構築で早期発見につなげたい。

【9. 国分寺駅北口再開発事業について】

問) 多くの関係者のご苦勞と困難を乗り越えての竣工に感謝する。油断を排し無事故の完成を。

市長) その期待に応えられるまちづくりをしたい。

問) 用途地域変更等の都市計画手続きは、都市基盤整備など権利者や住民に影響が出る。慎重かつ丁寧な手続きが必要と考えるが如何か。

市長) 軸から面へ、防災面の課題も含め進める。

【10. 地域公共交通、ぶんバスについて】

問) 待望の万葉・けやきルートが大変好評で順調な運行を評価。北町ルートバス増設やJR西国分寺駅へのルート変更に期待する。今後は日吉町ルートの新府中街道側道部分へのルート変更で、内藤地域が利用可能となる。是非とも早期検討を。

市長) これで交通空白地域は解消される。今後はバス事業者等との話し合いで微調整を進める。

市長) これで交通空白地域は解消される。今後はバス事業者等との話し合いで微調整を進める。

【11. 災害対策関連について】

問) 木造住宅密集地域への感震ブレイカー設置助成を評価。対象者へ丁寧な説明で設置促進を。

市長) 通電火災を防ぐ意味から30年度に予算化。

問) 1月大雪時は市職員や国分寺建設業協会のご尽力に感謝する。自治会等から融雪剤散布協力申し出の声を聞く。ルール化し依頼の検討を。

市長) 危険性を考慮の上市民要請を検討したい。

【12. ホームドア・点状ブロック設置推進を】

問) 転落事故防止は生命を守る大事な事業。鉄道事業者への要望等着実な推進を求める。

市長) 財政出動するが市民の命を守る為進める。

市民に寄り添い、その声を 活かす市政運営へ



国分寺政策市民フォーラム 星 いつろう

◆保育所に入れなかった家庭の実態把握

質問) 「子どもの預け先が決まらなと、採用してもらえない」「この国は『女性の活躍』と言うが、私たちはどうやって生きていけばいいのか」。お連れ合いを病気で亡くされ、シングルマザーとなったある市民の声である。2年連続、保育所に落ちている。その間、育休の延長を行ったものの、入所できずに職も失ってしまった。

保育所に入れず待機児童となってしまったご家庭の実態を組織的に市として把握すべき。

市長) ご意見は担当の方で承っていると思う。ケースに応じた形でご相談を個々にしていくことにさせていただければと思う。

質問) 実態把握は、より明確で現実的な政策につながる。アンケートや聞き取りの実行を。

◆障害のある方々の就労促進

質問) 国分寺駅北口再開発ビルのcocobunjiプラザ(5階公益フロア)のカフェについて。障害をもった方の「働く場」につながっていく形態を検討していただきたい。

市長) 市の姿勢として、就労の場の確保は必要と考えている。同時に、このフロアについては運営形態を含めて様々検討段階となっている。

◆4年生以降の学童保育所の利用

質問) 子どもたちの放課後の過ごし方を心配している保護者は少なくないが、学童保育所は3年生で卒所となる。その後、夏・冬・春の三季

休業中は、子どもだけで1日中過ごしているのが現実。学校の教室を活用し、三期休業中だけでも、4年生以降の預かりを検討すべき。

市長) 教室転用の検討を行っているが、設備面など課題もあり、まだ結論には至っていない。

◆発達障害に対する教育の水準維持を

質問) これまでは、児童が在籍校から指導教室が設置されている学校に移動していたが、この4月から教員が全小学校を巡回する制度に変わる。「必要な教室・教員・プログラムは確保されるのか。これまでの指導水準を維持してもらえるのだろうか」との意見を伺っている。

教育長) 様々なことが想定されるが、保護者にはしっかり説明し、課題を整理しながら改善に取り組んでいく。

質問) 在籍校の特別支援教室に通うことで、「特別な指導」を受けていることが一目瞭然となる。

「からかい」「いじめ」の対象になるのではないかと保護者の不安の声を聞いている。

教育長) パラリンピック教育も契機として、児童にも障害理解教育をしっかり進めていく。トラブルが発生した場合には、聞き取りを行い、丁寧な対応を図ることを徹底していく。

◆校舎増築には保護者・住民の意見反映を

質問) 九小・十小の校舎増築に伴い「市民説明会」が開かれた。十小の説明会では「増築する場所は、子どもたちが遊んでいる大切なスペース。いまある少人数棟の上に建てることで、この場所を引き続き確保することはできないのか」「宅地開発が進むなかで子ども数のさらなる増加はないのか。そうした事態に対応できる構造とすべきではないか」といった意見が出されていた。それらに対して「この時点では計画の変更はできない」との趣旨の回答であったことは残念。保護者・地域の声を受け止めて、市としてその内容を検討できるような時期に説明会を開催すべき。

教育長) これまで学校との協議やPTA運営委員会での説明などを行ってきたが、市民説明会でそうした声があったことは承知している。今後、新たな案件が生じた場合には、保護者・地域への説明は充分配慮していきたい。

◆非正規公務員の無期雇用転換の検討を

質問) 法律の改正により、有期労働契約が5年を超えて更新された場合、民間企業では本人の申し出により期間の定めのない無期雇用に転換する制度が始まる。社員のモチベーション向上にもつながると言われているが、市の嘱託職員(非正規職員)に対しても導入を検討すべき。

市長) 1年雇用の4回までの更新、その後の試験による更新をいまのところ継続していくが、この提案は研究していく。

「議員研修会」を開催

「地方議会の役割と今後の課題について」を学ぶため、平成30年1月24日に、元全国都道府県議会議長会議事務調査部長の野村稔氏を講師に迎え、研修会を実施しました。



(市役所第1庁舎3階委員会室にて)

市民活動センターの充実で 市民自治の推進を



国分寺・生活者ネットワーク 高瀬 かおる

◆**財政の健全化について**、ふるさと納税による税源の流出や地方消費税の清算基準の見直しによる歳入減が見込まれているが、地方消費税については、東京都から地方への分配をさらに進めようとする国の傾向があり、今後も大幅な減額が続くと考える。一方、歳出では、扶助費や公共施設等の更新に伴う負担が増えることから、決して楽観できる状況ではない。少子超高齢社会を見すえ、若い世代の将来の暮らしにまで思いを巡らせた財政運営が重要ではないか？

(市長) 収支均衡型の予算を組んでいきたい。将来的に歳入がひっ迫することもあり得る中では、財政調整基金はできるだけ取り崩さず、基金の使い道、方向性は、長期的な展望を持って考えていく。(問) 財政状況をわかりやすく市民に説明する必要がある。特に多額な予算が伴う事業の検討を市民参加で進めるに当たっては重要だ。(市長) 市報等で公表しているが、いろいろな機会を通じて情報共有する必要がある。

◆**共生社会の実現**には、地域住民や多様な主体が参画し、市民自治が実感できることが重要だ。地域福祉推進協議会では、地域の課題解決に向けた動きを促進していただきたい。(市長) 64の団体・個人が連携し情報共有している。地域課題をどう解決するのか、まさにこれから地域でやっていただくことになる。連携を図っていく。

◆**ぶんバスの整備**によって公共交通空白地域の解消はできたが、高齢の方からは「膝が痛くてバス停まで歩くのが大変」との声をお聞きする。高齢者の社会参加を応援するためにも、福祉的な視点を持った包括的な交通政策が必要では？(市長) 交通は福祉とは切り離せないもの。福祉の視点を入れながら検討を進めていく。

◆**いじめ・虐待防止**について、市全体でいじめを許さないという意識を高めることは重要だが、もし、そのような状況になってしまった時に、児童・生徒自らが、早期にSOSを発信しやすい環境が大事だ。総合教育会議では、教員の働き方改革について議論されたが、教師が子どもたちと、じっくりと向き合える時間や環境が必要ではないか？(教育長) 極めて重要だと考える。特に、学校において最も時間を費やす授業の中で、教員と子どもがしっかりとコミュニケーションをとり、子どもたちに安心を与えていくことが必要。限られた時間の中で、しっかりと向き合える環境を丁寧に丁寧につくっていききたい。

◆**若者支援事業**について、国分寺市若者支援地域ネットワーク会議が設置され、ひきこもりなどの困難を抱える若者、またその家族への支援が始まった。長い準備期間をかけてスタートした事業だが、2月に開催された集会には、100人を超える方の参加があり、関心の高さが伺えた。次のステップへの見解を伺う。

(市長) 専門家の講演があったが、みんなで情報を共有することがまず大事だろう。実態がなかなか見えないため、どのように発見し、どう訴えてもらえるか、研究していかなければならない。喫緊の課題なので、立ち上がったからには、スピード感をもってやっていきたい。

◆**「特色ある教育活動」**として、小・中学校に楽器の購入や修理に充てる費用を補助し、吹奏楽を通して音楽活動を充実するということだ。

いろいろな楽器の音をみんなで合わせる楽しみや曲を作り上げていく感動を、ひとりでも多くの児童・生徒に体験してほしいと思う。そして、近隣の音楽大学とも連携し、子どもや若者がさまざまな形で芸術に触れる取り組みを求める。(教育長) 大学生との連携では、現在もボランティアとして部活の指導に参加していただいている学校もある。さらに充実を図っていききたい。

◆**生活保護**について、誰もが突然、生活に困窮する可能性がある。国は、生活保護費のうち、生活扶助の支給額を2018年10月から段階的に引き下げるとしている。生活保護基準は就学援助をはじめ、様々な事業に連動していることから、生活保護世帯以外の低所得世帯にも影響が及ぶ。市として、引き下げによる影響の検証を行い、一人ひとりの生活実態を踏まえていただきたい。

(市長) 国からまだ詳細が示されていない。早期に把握し、どういう支援ができるか考える。

ため込みではなく くらしを支える予算に！



無会派(日本共産党国分寺市議団) 岡部 宏章

岡部：国分寺駅北口再開発を市の負担400億円以上もかけて推進してきた一方、その財源捻出のために暮らしの予算は切り捨てられてきた。今、基金の残高総額は113億円に及ぶ。大企業の内部留保の問題と同じ。市民が払った税金をため込むのではなく、様々な要求に応えるために生かすべき。とりわけ学童保育所の狭あい状況の問題は、市政上最も深刻な問題の一つ。

市長：基金が積める状況になってきたのは、国分寺駅北口再開発がここまで何とか進められてきた効果だ。幾つかの廃止した事業はその時の状況の中で判断してきたこと。今、基金があるから使い果たしてしまえば負担を先送りしなければいけないことになる。学童保育所は、今施設が追いついていないという実情はある。民設民営の学童保育所の誘致には努力していく。

岡部：民間は募集をかけても参入が難しく、何ら解決策にはならない。公立でみずから増設するべきだ。公共施設整備基金の積立て14億円の一部を使えばできる。

市長：公共施設整備基金はごみの焼却施設等にも使わなければいけない。あれば使えばいいという考え方は間違っている。

岡部：市はこの課題解決に真剣に取り組んでいないことがはっきりした。完全な責任放棄だ。学童保育所は造ろうとしない一方で、立派な庁舎や道路さえできれば市長はそれで満足なのか。2018年度予算案で新規に始める事業は保健・福祉分野では950万円、一方で開発分野は30億円。この予算案は余りにもアンバランス。保健・福祉を狙い撃ちにして抑制する予算だ。

市長：それは全然違う。全体の予算の約半分、224億7000万円が民生費、衛生費だ。

岡部：高齢化が進んでいる中で新たに求められているものに応えるだけの新たな事業は行わないということだ。生活に必要なものも市民に我慢してほしいということか。

市長：(扶助費、民生費の推移を述べるのみ)
◆**その他、特養ホームの増設、介護保険料、国民健康保険税について質問しました。**



大型公共事業を同時併行で 進めるべきでない



無会派(無所属) 甲斐 よしと

甲斐) 今日までの基金増は評価もある。なぜなら、私は7年前のこの代表質問にて、毎年、財政調整基金崩しでついに1億7000万円の問題のある予算だと糾弾し、直後に東日本大震災が発災し、本市は対応財源がなく庁舎基金を解体して対応せざるをえなかった。今後の日本経済の先行きは今がピークで2020年東京オリンピック後に下降か、日銀の金融緩和による副作用等厳しい局面も予測できる。本市の再開発は竣工に至るが、まだ駅前広場、地下駐輪場、再開発に連なる都計道国3・4・12号、三市共同ごみ焼却施設に取り組んでおり、これ以上、庁舎、リサイクルセンター等を重ねて着手すべきではないし、基金はそれらの為にある訳ではない。経済予測を踏まえ答弁を。

市長) これからの日本経済、世界経済は不透明であると考え。東京2020オリンピックを控え工事費が1.5倍に高騰している時期は避けなければいけないと考える。庁舎もリサイクルセンターも、そう勘案して慎重に進めたい。

市で起きている現実、 事実立脚した市政を！



無会派(ここに幸あれ) 幸野 おさむ

幸野) ◆**国分寺市の人口が増加**◆する中、学童保育所や学校の教室、スポーツ施設、障がい者・高齢者施設等が不足している。しかし市長は「人口減少社会」を強調し、その前提で政策や計画を進めており矛盾が。その結果、七小学童保育所、九・十小の教室棟が不十分な平屋建てに。人口推計を見直し、人口増に対する政策を市長) 人口ビジョンはあるが、実態に合わせた計画をつくっていききたい。

幸野) ◆**財政状況は持ち直している**◆市の積立金(貯金)は2013年度には34.6億円だったが、2017年度末には117.8億円に増加。消費税8%による地方消費税交付金の増加や、国分寺駅北口再開発の清算金等、市民負担によって改善した。しかし市は「財政は厳しい」と言い続けており、間違った発信はやめるべき。

市長) 積立金は万が一の為の備え。積立金と財政状況はイコールではない。

幸野) ◆**小学校給食費に補助の検討を**◆
市長) 負担をお願いすることは決定している。

次の定例会開催予定

市議会を傍聴してみませんか

平成30年第2回定例会は、6月1日(金)から開会の予定です。

議会はどなたでも傍聴できます。ぜひ傍聴にお越しください。

※本会議は市役所第1庁舎3階議場で、委員会は同委員会室で、午前9時30分から開始予定です。

一般会計予算議案に対する討論の要旨

3月26日の本会議で平成30年度一般会計予算議案に対する表決に先立ち、各党派等を代表して賛成・反対の討論が行われました。内容は、各党派等が一定のスペース内で自由にまとめたものを討論が行われた順番に掲載しています。

賛成討論

将来に負を持ち越さない 財政運営と評価する



自民党新国会(所属8名) 吉田 りゅうじ

この度の予算特別委員会では、当初予定通り7日間の日程で、しかも連日遅くとも19時を超過することなく委員会を閉じた点は長い国分寺市議会の歴史上珍しい。これは、行政職員の超過勤務の是正にも繋がる、まさにワークライフバランスの取れた働き方改革である点、委員会運営を含め冒頭評価をする。

▼予算編成について

平成30年度予算は、予算規模については449億5,598万円、昨年比マイナス9.3%、額では46億3,212万円の減である。これまでと同様に歳入・歳出ともに全ての事務事業の経費を「ゼロベースからの積み上げ」により細かく編成されたものの、ふるさと納税による税源の流出や国の地方消費税清算基準の見直しによる交付金の減少などによる大幅な財源不足となり、たいへん厳しい環境下での予算編成であったと推察。結果、財源不足を補う為に財政調整基金から必要最少限の3億379万円を取り崩し計上、山積する課題解決の為に必要不可欠な行為である一方で、市の貯金とも言える基金の年度末残高は庁舎建設資金積立基金40億5,871万円と合わせて計109億8,892万円が見込まれ、今後も着実に積み立てて戴き、有事にも対応できる弾力性を備えるとともに持続可能な安定財政運営を行って戴きたい。

▼政策的事務事業について

まずは国分寺市のランドマークとも言えるツインタワーの完成に伴う事業であり、4月1日に迫ったcocobunjiプラザの開館である。今後、民間活用スペースの動向が課題とも言えるが、一方でリオンホールやリオン広場などネーミングライツを活用してしっかりと入りを図られており、東街区1階に設置する収録スペースでは市報やホームページだけでは伝えきれない市政情報の発信など映像メディアを活用して伝える施策も更に進めて行って戴きたいと考える。次に、既存商店街を活性化し、まちのにぎわいを創出する事業である、こくベジプロジェクトの更なる発展で農商連携をはかり、魅力ある個店表彰事業や地域連携型商店街事業で地域への支援を期待する。

次に、かねてから我が会派の議員が自らの経験を通して熱望をしていた二つの事業である。骨髄移植ドナー支援事業と特定不妊治療費助成事業については、どちらも当該者の経済的負担軽減となる地味ではあるがとても人間味のある事業であり、特に骨髄移植では助成対象期間は東京都の7日間に加え更に市独自で3日を上乘せした点は大きく評価するものである。

他方、社会問題化している待機児童解消に向けた事業では、本年4月と5月、来年2月に認可保育所をそれぞれ1園ずつ開所するとともに既存の認可保育所の定員拡充もあわせて行い、合計183名の定員拡大をはかるというものであり、おおいに歓迎に値するものである。

この他、小・中学校における学習環境の向上を始めとし、観光情報発信力向上の為に公衆無線LANの設置、姿見の池緑地へのトイレ設置、けやきスポーツセンター内体育館への空調設備の設置やグラウンドの人工芝化等スポーツを楽しめる環境づくり事業、予防接種費用助成の対象年齢拡大、鉄道事業者によるホームドア等の整備支援、公民連携による市の活性化と市民サービスの向上等々、市民ファーストと捉えられる事業ばかりが織り込まれている。

また、市民の念願でもあり防災拠点の中心ともなる新庁舎建設については、役所機能としての現状と課題を調査分析するとともに、市民の意見を丁寧聞きながら具体化に向けて進めていくことも含まれた予算であることが確認された。

▼本予算を賛成する結びに

本年は国分寺市総合ビジョン2年目であり、市長2期目最初の大切な年でもある。井澤市長においては社会変化や市民ニーズをしっかりと掴み取り、誰もが安心して住み続けられる、将来に夢を持つことが出来るまちづくりを進めて戴くことを重ねてお願いし、賛成討論とする。

賛成討論

持続可能な財政運営を担う 人材育成を求める



公明党(所属4名) さの 久美子

平成30年度一般会計449億円、特別会計の268億円という予算規模は、国分寺駅北口再開発ビルの保留床処分金が歳入に135億円計上されていた昨年度より予算規模が縮小しているとはいえ、平成28年度当初予算と比較すると約40億円の増加。これまで同様にゼロベースから見直して予算編成されたことは評価する。しかし、地方消費税の清算基準の見直しに伴い、東京都においては大幅な交付金収入の減が今後も見込まれる。さらには、人口は増えるも少子高齢化の波は避けられず、高齢化率の増加や不可欠な子育て支援施策である民営保育所整備などに伴う扶助費の増加などの要因により長期的にみれば財政にとって厳しい状況は今後も続くといわざるをえない。今後、公共施設の維持・更新等の整備費用、新庁舎建設、3市による可燃ごみ共同処理施設の建設投資費用、社会保障費の増大等、大きな財政需要があることは代表質問でも述べたが、忘れてはならない事項である。ただ、これまで長期的な運用を視野に着実に基金の積み上げを行ってきたことは評価したい。

平成30年度予算は財政調整基金を一部取り崩しての予算編成となったが、今後、大きな財政需要も控えていることから基金の取り崩しが常態化することが無きよう強く求めておきたい。

《国分寺駅北口再開発について》

昭和49年の基本構想策定以来長きにわたった「国分寺駅北口再開発事業」。4月1日のコブンプラザの開館から晴れやかな場が続くが、この間、事業に携わられた方々への感謝を決して忘れないことが肝要。事業は完結したのではなく、更なる全体の発展、地域の活性化を目指し、まずは次の事業である交通広場の整備と地

下自転車駐車場の工事についても、無事故第一、駅利用者や周辺施設の方々への動線などへの最大限の配慮をお願いしたい。また、市民に便利になったと実感いただくためにも、公益フロアに期日前投票所を設置するように要望する。

《ぶんバスについて》

市内の公共交通空白地域の解消、福祉の拡充に寄与する事業。北町ルート、日吉町ルートのルート変更などの検討も始まっている。より多くの市民が利用しやすくするためにも大事な作業となるが、関係者のご理解を得ながら、担当の更なるご努力をお願いしたい。

《子育て支援について》

保育所待機児童の解消に向けて、保育施設整備への積極的な取り組みは高く評価している。合わせて、積極的な民間の児童発達支援事業所の参入・誘致施策を求めておく。学童保育所については、さらなる民設民営学童保育所の誘致をお願いするとともに、狭あい状況の解消に向けては必要とされる方々の入所状況の確認を踏まえ、調査を行う必要があると考える。妊娠期からの切れ目ない支援の「ゆりかご・こくぶんじ事業」の推進、さらには子育て世代支援センターの構築をしっかりとお願いしたい。

《命を守る施策について》

子どものインフルエンザ任意予防接種の費用一部助成の対象を小学校3年生まで拡大、脳血管疾患などの早期発見、予防のための脳ドック検診助成の開始は市民の健康を守る重要な施策で大いに評価。震災時の通電火災を防ぐ「感震ブレーカー助成事業」は対象者、対象地域が限定されるため、丁寧な周知を求める。鉄道事業者によるホームドア等の事業は着実に進め、事業者と協力という点では一定の財政負担もあることから情報収集などの対応をお願いしたい。

《高齢者の課題について》

高齢化率の上昇、認知症患者の増加に伴い、高齢者の見守りは重要課題。地域包括支援センターに設置された見守り相談窓口を今後どう機能させるかが鍵。地域活性化包括連携協定等を活用しながら具体的な取り組みをお願いしたい。井澤市長2期目の平成30年度予算は、各所に細やかな配慮のあるものとなった。市の発展のためには人の力、とりわけ力量が必要である。人材育成に力をいれていただきたい。将来にわたり安心していられるような持続可能な財政運営を行うことを求め、公明党の賛成討論とする。

映像配信について

平成30年第1回定例会の本会議で行われた代表質問と議案審議の様子が市議会のホームページからご覧になれます。また、次回第2回定例会の一般質問と議案審議のライブ中継・録画配信も行います。ぜひご活用ください。



本会議の動画配信
QRコード

スマートフォン等で読み取ると
サイトにアクセスできます!



賛成討論

借金減、基金増の今
将来を見据えた政策に！

国分寺政策市民フォーラム(所属4名)

皆川 りうこ

平成30年度の予算については、一般会計の予算総額449億5,598万6千円。特別会計合わせて全会計717億9,090万5千円。昨年の国分寺駅北口再開発ビルの保留床処分金に伴う歳入がないため大幅な予算縮小となった。とはいえ、近年約380億円の予算規模がH27以降は約400億円の予算編成となっている。多様化する市民ニーズに添えてきた予算と理解する。一般の家庭で言う借金と貯金については、H29年度に公営企業債57億円一括償還で駅の償還額が減額。未償還額は291億円あるとはいえ、市民一人当たりの借金が10年前の約48万円からH29年度は約24万円。基金については財政調整基金に約39億円、公共施設整備基金に約67億円、庁舎基金には約20億円と積み増しされたことは評価する。一方では、子育て支援・高齢者社会への福祉基金への積み増しについての質疑では、検討されなかったとの答弁は残念であったと指摘する。

予算全体の考え方、個別の政策や事業について事業目的・改善すべき点・評価・漫然とした仕事をしないよう等の視点から多岐に渡り質問した。

◆**扶助費**が財政上の負担となる感がある。多大な財政支出は否定できない。とは言え、マイナス要素と捉えるのではなく、保育環境整備はまちの魅力、未来への投資と市民に明確に伝えよ。

◆**ごみ減量施策**に関して事業別の予算計上となり分かりやすくなっていることは評価する。ごみ資源収集運搬経費が一億も増額にもかかわらず、理由が明確でなかったことは問題。生ごみ堆肥化の助成の目的は、助成台数ではなく生ごみ減量であるはず。以前、市で実施したアンケートや他市で助成を廃止した事例等も研究し助成の在り方の再評価、廃止、継続等を検討せよ。新規(仮)3市市民会議の個別説明票への記載がなく不適切。

◆**子育て支援、利用者支援事業**については国や都の補助事業として最近開始された事業。子育てコーディネーター、子育てワーカー等の新たな名称は役割もわかりにくい。今後は事業の水準を定めるガイドラインや事業実施の根拠規定の要綱等早急に整備せよ。

◆**地域福祉計画推進協議会**の活動評価シートは重要な情報である。課題等整理し他課との連携で次の施策に繋げよ。

◆**東日本大震災**の自主避難者への支援は今後も予算計上を明確にし継続すべき。

◆**マンション防災**について、エレベーター内での訓練等実践的な取り組みをすべき。

◆**国分寺総合ビジョンと予算**との整合性をとるべきだが、生活道路整備経費に関して予算計上が全くない。財政規律を標榜している市として不適切。

◆**個人情報保護審議会**に女性が一人もいないのは問題。どちらかの性に片寄らないとする市の条例にも反する。重く受け止めるべき課題だ。

◆**提案制度**の市職員・NPOスタッフの合同研修は参加者から高い評価がある研修。一過性で終わらぬように、次の展開に向けて検討せよ。

◆**人権教育**、いじめ問題については市としても長年の取り組みを評価する。国分寺市教育ビジョンの見直しの際には、人権テーマとしてLGBT、SOGIの明記を検討せよ。マイノリティ等当事者による授業の実施を。

◆**図書館**の一部民間委託化が開始されたが学校図書司書業務、地域文庫等高い評価だ。これまでの水準を低下することのな

いように。◆**指定管理者等アウトソーシング**は慎重に、委託先の労働環境にも目を向け良好であるべき。時間単価1,530円の事業も判明した。指定管理事業の業種別の時間単価の妥当性等も検証せよ。

◆**補正予算**について不要不急の政策的経費の計上はすべきではない。

◆4月より新たに**文化振興課、人権平和課**が設置される。誰かに押し付けられる文化は本来の文化ではない。公民館での歴史、実績もある平和事業とも連携し、重層的な事業展開を期待する。

◆**介護保険課**が廃止され高齢福祉課となり懸念もある。ミスのないように。

◆**歩行と車椅子併用の市民**が求める自転車駐車場への車椅子置き場に関して問うた。**障害者差別解消法の合理的配慮**の視点から合意形成プロセスも重要だ。言下に否定せず課題として受け止めよ。

◆**単年度に留まらず、中期・長期視点での政策立案**で福祉等の諸課題に取り組んで頂くことを願い賛成討論とする。

賛成討論

市民とともに考え、
ともにすすめる市政を

国分寺・生活者ネットワーク(所属3名)

岩永 康代

平成30年度一般会計予算額約450億円は、国分寺駅北口再開発保留床処分金の影響により、過去最大の予算規模となった平成29年度に続く規模であり、2年前の約409億円と比較しても40億円以上の増額となった。歳入では、人口の増加に伴う納税義務者の増加などにより、個人市民税の増額を見込んでいるが、一方で、地方消費税交付金については、国の精算基準の見直しにより、約3億483万円という大きな減額となった。東京ならではの急速な高齢化や待機児童対策など、喫緊の課題への対応に、非常に大きな影響がある。歳出では、今後も保育所の整備をはじめ扶助費の増額が続く見込みであり、経常収支比率は95.7%と、ここ数年悪化していることから、財政の硬直化を招かない財政運営を求める。

財政フレームでは、東京オリンピック・パラリンピック前後の経済動向に充分注視することが重要だ。フレームの最終年度の翌年には、団塊の世代が後期高齢者となる2025年を迎えることも踏まえ、多額の予算を必要とする建設事業等については、着工時期を慎重に判断するなど、長期的な視点にたった検討を求めた。

総合ビジョン実行計画の中心事業は毎年度、施策単位では必要に応じて2年ごとに見直しを行うとされている。市民の声を反映させた新たな行政評価のしくみを確立し、状況に応じて事業の選択と重点化をはかることが大切である。

◆**情報公開** 市民の財産である市の保有する情報を市民が知り、活用できるように、積極的に公開・提供することが大切。オープナーの配架目録が整理されHPに公表されたことは、分かりやすい情報提供の一つとして評価する。また、情報公開は文書管理とセットですすめることが重要だ。今、国では公文書のあり方が大きく問われているが、市でも文書管理について改めて見直し、**公文書管理条例**の制定を求める。

◆**子育て・子育ていきいき計画** 次期計画策定にむけ、平成30年度はアンケート調査が行われる。社会的にも課題となっている**子どもの貧困**については、子どもを取り巻く生活実態も把握できる調査とすべき。またひとり親家庭の支援や、里親などの**社会的養護**のもとに育つ子どもや家庭を地域で支える取り組みについて、東京

都と連携し、市の施策のあり方の検討を望む。

◆**生ごみたい肥化事業** 平成32年度からの日野市・小金井市との共同処理の開始にむけ、さらなる可燃ごみの減量が課題だが、可燃ごみの約半分をしめる生ごみをごみとせず、資源として循環させる**たい肥化事業**の拡充は重要だ。平成30年度には剪定枝のチップ化を中止し、家庭用生ごみ処理機器の普及の見直しを行うとのことだが、市民への納得のいく説明を求める。

◆**交通安全計画** 平成30年度は、新たに策定された交通安全計画を市民とともに実行していく大切な初年度となる。計画に位置付けられた「**交通ボランティア**」としての活動を、地域で継続できるように、組織づくりやボランティア保険などの活動を支えるしくみの整備を、市民の声を聞きながらすすめることを要望する。

◆**学校を支える人員体制** 平成30年度に全小学校において巡回型の特別支援教室がスタートする。学級担任を中心として、特別支援教室の巡回指導教員や、特別支援教育コーディネーター、サポート教室の支援員、クラスアシスタント等、様々な場面でかかわる支援者が役割分担をし、連携しながら子どもや学級を支える体制が重要。教員の働き方改革に向け、実施計画を策定することだが、地域のボランティアやサポート・スタッフ等、様々な役割を持った人が学校を支える体制を総合的に整備することが大切。あわせて、**スタッフの養成・研修**等、現場対応のスキルアップを図る取り組みを求める。

複雑化する地域課題に対応し、一人ひとりが豊かに暮らせるまちの実現のためには、市民の参加をすすめる、分かりやすい情報提供と丁寧な説明により、市民の合意をはかりながらすすめることが不可欠である。総合ビジョンの2年目となる平成30年度は、市民とともに考え、ともにすすめることを求め、賛成の討論とする。

第1回定例会陳情の審議結果

第1回定例会では陳情10件を審議した結果、継続10件となりました。

《継続となった陳情》

陳情第29-2号 西国分寺駅東口開設を求める陳情

陳情第29-3号 新市庁舎建設に関する文化施設の併設についての陳情

陳情第29-5号 「日本軍『慰安婦』問題に関する意見書」の見直しを求める陳情

陳情第29-6号 西国分寺駅東口恋ヶ窪側乗降口の開設を求める陳情

陳情第29-8号 東京都立武蔵国分寺公園または隣接する公有地へのドッグラン設置についての意見書提出を求める陳情

陳情第29-9号 東京都に、第32回オリンピック競技大会(2020/東京)の開会式に競技施設等の工事従事者の入場行進を求める等の意見書提出を求める陳情

陳情第29-10号 日本政府に核兵器禁止条約への調印を求める意見書の提出を求める陳情

陳情第29-11号 幼稚園が行う「預かり保育」への助成制度の新設に関する陳情

陳情第29-12号 日本政府に核兵器禁止条約への調印を求める意見書の提出を求める陳情

陳情第29-13号 国分寺障害者団体連絡協議会の活動拠点を確保し提供することに関する陳情

反対討論

ため込みではなく、
くらしを支える施策を



岡部 宏章

無党派(日本共産党国分寺市議団)(所属2名)

反対の立場で討論する。

2018年度予算は、2017年度に国分寺駅北口再開発の保留床処分金の収入があり基金残高の総額が100億円を超える中で、これをいかに市民のくらしを支える施策へと還元していくかが問われていた。過去を振り返れば、再開発によって市民に我慢を強いる市政が行われてきた。私たちは、大型開発優先の市政から、市民のくらしを支える市政へと、根本からの転換を求めてきた。しかし、2018年度予算はこの課題提起に真っ向から背を向ける中身だ。

現在の井澤市政のもとでとりわけ矛盾が集中的かつ深刻に現れているのは学童保育所の不足とそれにとまなう狭あい状況の問題だ。その解決のために公立で学童保育所を整備する方針へと転換すべきだ。学童保育所に詰め込まれている子ども達が深刻な実態に置かれていること、そのため子どもが学童保育所に通いたがらない

など、子どもの最善の利益を損ねている。民間任せで進める市の学童保育所の整備方針は完全に破たんしている。

今年度予算は新規事業が保健・福祉には総額950万円、対して開発分野には総額30億円というのは余りにもアンバランスだ。市民施策の拡充を求めると「扶助費が伸びて大変」あるいは「後年度に負担をかけないために財政規律を守る」などといった答弁が繰り返される。しかし、扶助費には国や東京都から多額の補助があることから、国分寺市の財政を著しく圧迫している状況ではない。

積みあがった基金の原資は国分寺駅北口再開発事業に投入されてきた市民の税金であり、苦しい生活を送っている市民にも還元することを求める。

◆この他、こどもの発達センターつくしんぼの狭あい状況と待機児童の解消、住民要望に基づいた恋ヶ窪駅周辺まちづくり、廃止された自動交付機の復活、生活保護の引き下げ反対と現業員の強化、西国分寺駅東口の開設、感震ブレイカーの貸出しの拡充等について求めました。

国政を揺るがしている文書管理について市においては文書管理条例の制定を求める。また、文書管理は情報公開と一体であると認識すべき。改めて自治基本条例に確実に従った市政運営を求める。

反対討論

財政は改善し、人口も
増加中だが、不十分予算



幸野 おさむ

無党派(ここに幸あれ)(所属1名)

幸野) ●市の財政状況は改善し、人口も増加中だが、公共施設不足への対応が不十分×●待機児童を解消する為、公立保育園の民営化は中止を×保育園の誘致強化○保育士の確保△幼稚園との連携△つくしんぼの増設等×を●学童保育所の狭あい状況の改善△4年生以上の受け入れ×本多学童保育所の建て替えを×●学校の教室不足の解消△と三小と四小の校庭拡張を×消費税の財源を活用し給食費への補助を×●介護保険料は積立金を活用し、値上げ中止を×高齢者入浴施設は別施設への改修ではなく再開こそ×特別養護老人ホームや老人保健施設の整備で待機者ゼロへ×●障がい者グループホームや就労支援施設の増設を△移動支援制度の改善△ガイドヘルパーの確保を×●リサイクルセンター建設や新庁舎建設は、建築費が落ち着くまで慎重に△●西国分寺駅東口と恋ヶ窪駅東口の開設に向け、バリアフリー基本構想の策定を×スポーツ施設の拡充を△国分寺駅周辺や公共施設等の駐輪場・駐車場整備を△

賛成討論

現在より経済が下降の
可能性の対応力が必要



甲斐 よしと

無党派(無所属)(所属1名)

2020年東京オリンピック・パラリンピック後の日本経済は極めて厳しい状況を予期される声が多い。持続可能な財源・財政のために、中期財政計画の正確度を上げ示すよう求める。40年に渡る公共施設等総合管理計画による施設の補修、改築が将来の負担増とならぬよう標準化して進めるとの方針がトーンダウンしている。計画自体の改訂を行い示すべきだ。

子ども、子育て世代へむけた地域包括支援センターについては31年度開始としているにも関わらず具体像が無い。早急に検討案を示すよう。

高齢者施策における生きがい事業も入浴施設廃止時に現5ヶ所から10ヶ所を目標としてたが全く増えてない。公園、学校等での体操等、多様な元気、地域づくりで介護いらずへと推めよ。

閉会中の委員会等

委員会はどなたでも傍聴できます

第1回定例会終了後、平成30年第2回定例会までの間に開催する委員会等は下記のとおりです。

- 4月16日(月) 議会運営委員会
- 4月23日(月) 総務委員会
- 4月25日(水) 厚生委員会
- 5月8日(火) 文教子ども委員会
- 5月9日(水) 建設環境委員会
- 5月10日(木) 国分寺駅周辺整備特別委員会
- 5月30日(水) 代表者会議/議会運営委員会

市役所第1庁舎3階委員会室で午前9時30分から開催します。(4月25日は午後2時、5月8日は午後1時30分から開催)
*詳しくは、市議会ホームページをご参照ください。

「日曜議会」を開催

今定例会の初日(2月23日)に、市長から施政方針が発表され、それに対する各会派からの代表質問を2月25日(日)に行いました。

当日は多くの市民の方が来場され、議会を傍聴されました。



議案に対する議員の表決状況 (賛否の分かれたもの)

議案名	議員名	会派名																							
		自民党新政会					フォーラム			公明党		ネット		共産党		幸(無)		無							
		丸山哲平	吉田りゅうじ	尾作義明	田中政義	本橋たくみ	新海栄一	尾澤しゅう	須崎宏	及川妙子	だて淳一郎	星いつろう	皆川りうこ	さの久美子	なおの克	高橋りょう子	木島たかし	高瀬かおる	秋本あすか	岩永康代	岡部宏章	中山ごう	幸野おさむ	甲斐よしと	木村徳
議案第1号	平成30年度国分寺市一般会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○	
議案第3号	平成30年度国分寺都市計画事業国分寺駅北口地区第一種市街地再開発事業特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○
議案第5号	平成30年度国分寺市介護保険特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○
議案第6号	平成30年度国分寺市後期高齢者医療特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○
議案第9号	平成29年度国分寺都市計画事業国分寺駅北口地区第一種市街地再開発事業特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○
議案第17号	国分寺市特別職の職員の常勤のものの給与に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○
議案第18号	国分寺市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○
議案第20号	国分寺市国民健康保険条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○
議案第24号	国分寺市介護保険条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○
議案第25号	国分寺市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○
議案第27号	国分寺市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○
議案第58号	国分寺市個人情報保護条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

・表決 (○=賛成 ●=反対)

・会派名 (フォーラム=国分寺政策市民フォーラム、ネット=国分寺・生活者ネットワーク、共産党=無党派(日本共産党国分寺市議団)、幸=無党派(ここに幸あれ)、(無)=無党派(無所属)、無=無党派)

第1回定例会議案審議結果

第1回定例会には新規60件(市長提出59件、委員会提出1件)の議案が提出され、同意16件、可決44件となりました。
※太字表記の議案の表決結果は7頁を参照してください。

議案番号	議案名	議案の要旨	付託先委員会	本会議結果		
1号	平成30年度国分寺市一般会計予算	歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ449億5,598万6千円と定める。	予算	賛成多数・可決		
2号	平成30年度国分寺市土地取得特別会計予算	1億7,077万5千円と定める。	〃	全員賛成・可決		
3号	平成30年度国分寺都市計画事業国分寺駅北口地区第一種市街地再開発事業特別会計予算	17億3,832万2千円と定める。	〃	賛成多数・可決		
4号	平成30年度国分寺市国民健康保険特別会計予算	107億5,034万5千円と定める。	〃	全員賛成・可決		
5号	平成30年度国分寺市介護保険特別会計予算	84億542万6千円と定める。	〃	賛成多数・可決		
6号	平成30年度国分寺市後期高齢者医療特別会計予算	28億1,381万2千円と定める。	〃	賛成多数・可決		
7号	平成30年度国分寺市下水道事業特別会計予算	29億5,623万9千円と定める。	〃	全員賛成・可決		
8号	平成29年度国分寺市一般会計補正予算(第6号)	歳入歳出予算の総額に1億7,791万7千円を増額し、歳入歳出それぞれ509億6,357万5千円とする。	補正予算	全員賛成・可決		
9号	平成29年度国分寺都市計画事業国分寺駅北口地区第一種市街地再開発事業特別会計補正予算(第2号)	歳入歳出予算の総額に2億6,444万3千円を増額し、歳入歳出それぞれ216億76万4千円とする。	国分寺駅	賛成多数・可決		
10号	平成29年度国分寺市地域バス運行事業特別会計補正予算(第2号)	歳入歳出予算の総額から439万5千円を減額し、歳入歳出それぞれ1億127万円とする。	建設環境	全員賛成・可決		
11号	平成29年度国分寺市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	歳入歳出予算の総額から4億5,788万3千円を減額し、歳入歳出それぞれ123億2,646万1千円とする。	厚生	全員賛成・可決		
12号	平成29年度国分寺市介護保険特別会計補正予算(第3号)	歳入歳出予算の総額から1億2,426万6千円を減額し、歳入歳出それぞれ83億3,495万5千円とする。	〃	全員賛成・可決		
13号	平成29年度国分寺市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	歳入歳出予算の総額に561万6千円を増額し、歳入歳出それぞれ27億5,519万9千円とする。	〃	全員賛成・可決		
14号	平成29年度国分寺市下水道事業特別会計補正予算(第3号)	歳入歳出予算の総額から4,970万4千円を減額し、歳入歳出それぞれ29億8,232万8千円とする。	建設環境	全員賛成・可決		
15号	国分寺市公益的法人等への職員の派遣等に関する条例について	公益的法人等への一般職の地方公務員の派遣等に関する法律に基づき職員を派遣する。	総務	全員賛成・可決		
16号	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	東京都に準じた勤勉手当の支給割合を改定する。	〃	全員賛成・可決		
17号	国分寺市特別職の職員の常勤のものの給与に関する条例の一部を改正する条例について	市長、副市長及び教育長の期末手当の支給割合を改定する。	〃	賛成多数・可決		
18号	国分寺市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例について	退職手当の基本額及び退職手当の調整額に係る単価を改定する。	〃	賛成多数・可決		
19号	国分寺市市税賦課徴収条例の一部を改正する条例について	平成30年度から平成32年度までの都市計画税の税率の特例を規定するほか、地方税法施行規則の改正に伴い、引用条項を整理する。	〃	全員賛成・可決		
20号	国分寺市国民健康保険条例の一部を改正する条例について	国民健康保険法等の改正に伴い、国民健康保険運営協議会、国民健康保険税の課税額等に関する規定を整備する。	厚生	賛成多数・可決		
21号	国分寺市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について	高齢者の医療の確保に関する法律の改正に伴い、住所地特例制度に関する規定等を整備する。	〃	全員賛成・可決		
22号	国分寺市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について	福祉事務所嘱託医等の報酬の額を改定する。	〃	全員賛成・可決		
23号	国分寺市人間ドック条例の一部を改正する条例について	人間ドックに加え、新たに脳ドックを実施する。	〃	全員賛成・可決		
24号	国分寺市介護保険条例の一部を改正する条例について	介護保険法及び介護保険法施行令の改正に伴い、サービス利用時の費用負担の見直し、介護医療院に関する規定の追加及び所得指標の見直しを行うとともに、介護保険料を改定する。	〃	賛成多数・可決		
25号	国分寺市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例について	介護保険法の改正に伴い、居宅介護支援事業者の指定権限が都道府県から市区町村に移譲され、指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を整備する。	〃	賛成多数・可決		
26号	国分寺市指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例について	指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準の改正に伴い、関係規定を整備する。	〃	全員賛成・可決		
27号	国分寺市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について	指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準の改正に伴い、関係規定を整備する。	〃	賛成多数・可決		
28号	国分寺市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について	指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準の改正に伴い、関係規定を整備する。	〃	全員賛成・可決		
29号	国分寺市ひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例について	児童扶養手当法の改正に伴い、控除対象配偶者に関する規定を整備する。	文教子ども	全員賛成・可決		
30号	国分寺市義務教育就学児の医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例について	児童手当法の改正に伴い、控除対象配偶者に関する規定を整備する。	〃	全員賛成・可決		
31号	国分寺市事務手数料条例及び国分寺市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例について	建築基準法の改正に伴い、引用条項等を整理する。	建設環境	全員賛成・可決		
32号	国分寺市地域バス運行事業特別会計条例を廃止する条例について	地域バスの運行に要する経費を、国分寺市地域バス運行事業特別会計から一般会計の費目として整理する。	〃	全員賛成・可決		
33号	国分寺市立公園条例の一部を改正する条例について	都市公園法施行令の改正に伴い、運動施設の設置基準に関する規定を整備する必要があるとともに、東恋ヶ窪一丁目内に東恋ヶ窪でんしゃ公園を新設し、高木町三丁目地内の「高木町ミニ公園」の名称を「高木町ふれあい公園」に変更する。	〃	全員賛成・可決		
34号	国分寺市情報公開・個人情報保護審議会委員の選任について	国分寺市情報公開・個人情報保護審議会委員の任期満了に伴い、浅井照史氏を選任する。	—	全員賛成・同意		
35号	〃	〃	〃	森利明氏を選任する。	—	全員賛成・同意
36号	〃	〃	〃	西田誠幸氏を選任する。	—	全員賛成・同意
37号	〃	〃	〃	岡野和弘氏を再任する。	—	全員賛成・同意
38号	〃	〃	〃	金崎剛志氏を再任する。	—	全員賛成・同意
39号	〃	〃	〃	佐藤修氏を再任する。	—	全員賛成・同意
40号	〃	〃	〃	篠江雄一氏を再任する。	—	全員賛成・同意
41号	〃	〃	〃	鈴木敬氏を再任する。	—	全員賛成・同意
42号	〃	〃	〃	曾根原登氏を再任する。	—	全員賛成・同意
43号	〃	〃	〃	丸山一貴氏を再任する。	—	全員賛成・同意
44号	国分寺市オンズパーソンの選任について	国分寺市オンズパーソンの任期満了に伴い、櫻井一成氏を再任する。	—	全員賛成・同意		
45号	国分寺市建築審査会委員の選任について	国分寺市建築審査会委員の任期満了に伴い、米田秀男氏を選任する。	—	全員賛成・同意		
46号	〃	〃	〃	澤田孝信氏を選任する。	—	全員賛成・同意
47号	〃	〃	〃	後藤眞理子氏を再任する。	—	全員賛成・同意
48号	〃	〃	〃	和田英治氏を再任する。	—	全員賛成・同意
49号	〃	〃	〃	関智文氏を再任する。	—	全員賛成・同意
50号	市道路線の廃止について	戸倉二丁目地内の道路について、公共の用に供しておらず、将来にわたり存置する必要がないと認められるため、市道路線を廃止する。	建設環境	全員賛成・可決		
51号	〃	内藤一丁目地内の道路について、公共の用に供しておらず、将来にわたり存置する必要がないと認められるため、市道路線を廃止する。	〃	全員賛成・可決		
52号	〃	内藤一丁目地内の道路について、公共の用に供しておらず、将来にわたり存置する必要がないと認められるため、市道路線を廃止する。	〃	全員賛成・可決		
53号	市道路線の一部廃止について	戸倉二丁目地内の道路について、公共の用に供しておらず、将来にわたり存置する必要がないと認められるため、市道路線の一部を廃止する。	〃	全員賛成・可決		
54号	〃	内藤一丁目地内の道路について、公共の用に供しておらず、将来にわたり存置する必要がないと認められるため、市道路線の一部を廃止する。	〃	全員賛成・可決		
55号	〃	西恋ヶ窪一丁目地内の道路について、公共の用に供しておらず、将来にわたり存置する必要がないと認められるため、市道路線の一部を廃止する。	〃	全員賛成・可決		
56号	指定管理者の指定について	国分寺市プレイステーションの管理運営に関する業務を、平成30年4月1日から平成31年3月31日まで、「特定非営利活動法人冒険遊び場の会」に行わせる。	文教子ども	全員賛成・可決		
57号	東京都後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する規約について	後期高齢者医療保険料の軽減に係る経費を都内各市区町村の一般財源から分賦金として支弁する。	厚生	全員賛成・可決		
58号	国分寺市個人情報保護条例の一部を改正する条例について	国民健康保険給付費等交付金、国民健康保険事業納付金及び標準保険料率に関する省令の施行に伴い、オンライン結合に関する規定を整備する。	〃	賛成多数・可決		
59号	国分寺市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について	介護保険法施行規則及び指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準の改正に伴い、関係規定を整備する。	〃	全員賛成・可決		
委員会提出議案第1号	国分寺市議会会議規則の一部を改正する規則について	議会運営委員会であらかじめ決定した順に討論を行うため、規則の一部を改正する。	—	全員賛成・可決		

・国分寺駅=国分寺駅周辺整備特別、補正予算=補正予算審査特別、予算=予算特別、—=本会議即決